

テーマ別 「熟議」 ご意見まとめ

開催期間：令和5年9月25日
～令和6年2月20日



安芸太田町

日時	対象グループ	属性	会場	ピックアップ・テーマ	備考	備考2
R5.9.25	役場職員	行政	役場	町民が参加する学び	※WorkShop形式	
R5.11.21	校長会 (15:30～16:30)	学校	川森文化交流センター	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R5.12.20	教頭・事務長 (15:30～16:30)	学校	川森文化交流センター	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R5.11.8	加計小学校 職員 (15:30～16:30)	学校	各学校	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R5.10.24	簡賀小学校 職員 (15:50～16:45)	学校	各学校	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R5.11.29	戸河内小学校 職員 (15:30～16:30)	学校	各学校	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R5.12.26	加計中学校 職員 (13:00～14:00)	学校	各学校	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R6.1.18	安芸太田中学校 職員 (15:10～16:10)	学校	各学校	本町の学びで目指す子ども像	※WorkShop形式	
R6.1.24	保育園・所職員 (職員)	保育園・所	川森文化交流センター	遊びを大事にする学び	※WorkShop形式	※警報発令により中止
R5.10.31	保育園長・所長 (14:30～15:30)	保育園・所	川森文化交流センター	遊びを大事にする学び	※WorkShop形式	
R5.10.30	加計中学校生 (16:00～17:00)	子供	各学校	はしもトーク (町長とフリートーク)	※フリートーク形式	－
R6.1.16	安芸太田中学生 (16:10～17:10)	子供	各学校	はしもトーク (町長とフリートーク)	※フリートーク形式	－
R6.1.30	加計高校生徒 (16:00～17:00)	子供	加計高等学校	力を合わせ共に育つ学び	※WorkShop形式	
R6.1.26	保護者 (保・小・中)	保護者	まんが喫茶とりこや	好奇心を刺激する学び	※WorkShop形式	
R6.1.26	商工会、第一次産業、芸能・文化・NPO団体等	地域の教育資源	まんが喫茶とりこや	地域の子どもとの関わり	※WorkShop形式	
R5.11.6	加計小学校運営協議会 (10:00～12:00)	地域住民	各学校	地域の子どもとの関わり	※WorkShop形式	
R5.11.8	加計中学校運営協議会 (10:00～12:00)	地域住民	各学校	地域の子どもとの関わり	※WorkShop形式	
R5.11.13	安芸太田中学校運営協議会 (14:30～16:30)	地域住民	各学校	地域の子どもとの関わり	※WorkShop形式	
R5.11.17	簡賀小学校運営協議会 (10:00～12:00)	地域住民	各学校	地域の子どもとの関わり	※WorkShop形式	
R5.11.21	戸河内小学校運営協議会 (10:00～12:00)	地域住民	各学校	地域の子どもとの関わり	※WorkShop形式	
R6.2.20	全町民	地域住民	役場		※意見交換会形式	

テーマ分科会 「 役場職員 」

日程	令和5年9月25日（月） 10：00～11：00	場所	役場会議室	参加者数	12 名
ピックアップテーマ	町民が参加する学び				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 安芸太田町のことが好き。（安芸太田の親子こそ自然の中で子育て出来る環境を） ・ 本町のことが好きな子。 ・ 本町で暮らしたいと思う子。 ・ 本町のことが好きな子が増えてほしい。 ・ 大人になってから本町に帰ってきてほしい。 ・ 自分のことが好きな子が増えてほしい。 ・ 安芸太田が好きに思える子。				
自分たちにできること	・ 今、放課後児童クラブでの過ごし方は、宿題をして保護者を待つ。 ↓ 地域の人と子ども達が主体的に遊びや学びを創る。 物づくりをしたい。川遊びがしたい。伝統を知りたい。 ・ 観光客でなく町民が親子で遊べる場所や企画 ↓ つなぐのが役場の職員 ・ 制限を減らしてあげたい。 ・ まずは自分達が町を好きになる。 ・ 子どもと共に一緒に体験して学ぶ。 ・ 思い出づくり→PTA、子ども会（地域の） ・ プラスのイメージを大人が持つ→子どもにつながる。 ・ 地域の活動（子ども会など）を行う。 ・ 文化・伝統を引き継いでいく。 ・ イベント（行事）をやる。				
その他意見	・ 帰ってきたいと思う町づくり→大人の使命 ・ 自然があるだけでは伝わらない。どう伝えていくか。 ・ 行政として環境を作る。提供する。 ・ 行政でないと出来ない仕事は何か。 ・ 昔と違い今の教育は、あれもこれもダメ、と制限が。体験させたいが時間がない。				

テーマ分科会 「 筒賀小職員 」

日程	令和5年10月24日（火） 15：50～16：45	場所	筒賀小学校	参加者数	10 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ たくましい子 ↓ 自信、学び続ける、挑戦する勇気、失敗してもへこたれない、乗り越える（気づき・考え・行動する） ・ 生命を大切にする安芸太田っ子。 ・ 挑戦し、経験する安芸太田っ子。 ・ 故郷を大切にする安芸太田っ子。 ・ 20年後、30年後に故郷に愛情、好きと言える。 ・ 安芸太田に貢献できる。 ・ 自ら主体的に考える子ども ・ 自分の考えと人の考えのやりとりができる。 ・ 困ったら「助けて」気付ける。一緒に考える。				
自分たちに行えること	・ 失敗させる勇気を持つ ↓ 予測し、フォローできるようにしておく。 ・ 目指す子ども像を子どもと保護者と共有しておく。 ・ 地域の人との関わり、素材を活用。 ・ 給食に地域の食材の提供。 ・ 町という大きな枠で関わっていく。身近なところでの関わり。 ・ 協調学習を続ける。 ・ 小・中・高の「総合的な学習の時間」のストーリーを作る。 ↓ 地域の自然、系統性。				
その他意見	・ 新しいことをやっていく感じではない。今までやってきたことが書いてあるイメージ。別にかまえなくてもよさそう。 ・ 体験不足。経験していないから出来ない。チャレンジしない。 ・ 住んでいる町で子どもが深入山や龍頭峡に行っているのか。 ・ 学校だけではできないので地域や保護者に協力 ・ 失敗してもへこたれない。それをどう乗り越えるか。 ・ 時代も子供達も変わっていく。求めるものが変わってくる。				

テーマ分科会「 保育園長・所長会 」

日程	令和5年10月31日（火） 14：30～15：30	場所	川・森・文化・交流センター	参加者数	4 名
ピックアップテーマ	遊びを大事にする学び				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ふるさとを大切にする心 ・自分らしく、自分に自信を持って。 ・自分を大切にする子ども、人も大切にできる。 ・無条件に自分を受け入れられる。受け入れてもらう。（自己受容、自己肯定感）				
自分たちにできること	・0歳からの育ち。 ・つながり（同年齢、小・中・高、地域、家族、人、もの、環境等） 自分を取りまく全てのもの。 ・自己決定、選択する。 ・遊び込む。なかでも自己決定ができる遊びを。 ・環境構成。				
その他意見	・従来の良さが入っていない。森のようちえんに偏っている。 ・「遊びを大事にする学び」→どういうことか。なんでも学び。遊びも学び。 ・自然が出すぎている。言われたことが伝わらない。 ・遊び、学び、育つ、「つながり」←外してはいけない。 ・「特に就学前児童」ではなく「0歳から」、0歳から18歳 ・「学校・園の先生へ」⇒「体験させてあげてください」ではなく「一緒にしてください」共通の体験・共感 ・「大人が必要以上にかかわらず」→いらないのではないか。放任と捉えられかねないのでは。 ・「大人が必要以上にかかわらず」→「子どもが自分の力で」 ・「ありのままの安芸太田っ子」を応援する。（※職員の意見から）				

テーマ分科会「 加計小運営協議会 」

日程	令和5年11月6日（火） 11：00～12：00	場所	加計小学校	参加者数	9 名
ピックアップテーマ	地域の子どもとの関わり				
20年後こんな 「安芸太田っ子」が 増えてほしい	・郷土を愛する子ども。 ・気づいて考えてやってみる子ども。 ・郷土愛のある子に育ててほしい。				
自分たちに できること	・仕事が有れば郷土芸能などを通して借の様に地域で子どもを（しかる等） ・一人ひとりにあいさつをする。				
その他 意見	・地域の伝統芸能を引き継いでほしい。 ・地域に子供がいな。関りを持てと言われてもどう接していいかわからない。 ・民泊でせっかく来ているなら地元の子どもと交流があってもいいのではないかな。家との関りしかない ・大人が地域の良さに気付いていない。誇り思っ心を感じる事が大切。				

テーマ分科会「加計中運営協議会」

日程	令和5年11月8日（水） 10：00～12：00	場所	加計中学校	参加者数	4 名
ピックアップテーマ	地域の子どもとの関わり				
20年後こんな 「安芸太田っ子」が 増えてほしい	・安芸太田に「帰って来たい」と思える子ども。				
自分たちに できること	・帰ってきた子どもを迎え入れる環境。 ・伝統・文化を残す（神楽、祭り） → 結果として、子どもが喜び、集まる。帰ってくる。 ・「次は自分達の番だ」という思いを根付かせる。 ・今の町の教育を大切にする → 子どもは自分達が受けた教育にプライドを持てる。 実際、プライドを持っていることを話す生徒も。 ・伝統を子どもに体験させる。				
その他 意見	・これまでの海での体験活動も良いと思うが、今、町内の自然の中での体験活動を取り入れているのは、たいへん良いこと。 ・いったんは町を出ても、色々な世界を知って帰ってきてくれたら嬉しい。 ・子どもは、大人の背中を見ている。（伝統・文化を残す大人の背中。）				

テーマ分科会「 加計小職員 」

日程	令和5年11月8日（水） 15：30～16：30	場所	加計小学校	参加者数	15 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・「安芸太田が良い！」と言える子。 ・自然の価値が分かる子。 ・結果にこだわり、より良くなろうとする子。 ・経験を広く浅くでも良いのでたくさんをアクティブな子。 ・もっとやりたい！安芸太田が大好きな子ども。 ・ICTをうまく活用して田舎生活を楽しみつつ、しっかり稼げてお洒落な町になってほしい。税収入大切！ ・たくましい安芸太田っ子。				
自分たちに行えること	・森の幼稚園のような環境（幼児教育） ↓ 遊び方が分かる、器用さ、コミュニケーション力。 学力、認知機能→向上。 ・人、金、時間の確保。 ・アクティブになる。 ・目的を意識して、体験に取り組む。 ・繋げる（地域⇄子ども 親⇄子ども 地域⇄地域 学校⇄学校） → 人・金・時間 ・町内（校区外も）全体のことを知る（学ぶ） → 行ける予算が欲しい！ ・クリエイティブな子。 ・田舎だからわかる。 ・軸足は安芸太田（出ても良い！世界で活躍してほしい！） でも、子育ては安芸太田で！と思えるように・・・				
その他意見	・ふるさと恋しい。大人がそうなっているのか。それを子どもに期待してもいいのか。 ・教員として恩返ししたい・ ・どの学年も地域をみていく。地域を巻き込んでやっていく。地域の方は子どもは宝だと感じてくれている。それを学校はどうやっていくか。 ・子どもの数が少ない。その中でどう育っていくのか。 ・「好奇心を刺激する学び」→家の人ほど楽しんでいるのか。体験しているのか。土日には街に出ている。町内で活用されていない。				

テーマ分科会「 安芸中運営協議会 」

日程	令和5年11月13日（月） 15：40～16：40	場所	安芸太田中学校	参加者数	6 名
ピックアップテーマ	地域の子どもとの関わり				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 町に帰って来やすい子に。 ・ 世界を目指す子に。 ・ 町外でやっていける子に（各分野） ・ 読書を増やすべき。（300冊／年以上＝著名人） ・ 地元の良さを感じ、安芸太田に住みたい子。				
自分たちにできること	・ 認めてあげる。肯定してあげる。個々に評価してあげる。 ・ 体験の場やチャンスの機会を地域や保護者の中から与えてあげる。 ・ 自分の経験を話し、伝える場を作る。（恥ずかしがらず） ・ 伝承者の話を聞く。 ・ <u>面白いこと、わくわくすること＝遊び（異年齢）</u> （自然） ・ 後ろ姿				
その他意見	・ 正直なんで今更こんなこと（熟議）をするのか。 ・ 自然教材、語れる人がいなくなる。 ・ 「失敗しても大丈夫」→失敗は新たな経験。経験をできる場。 ・ 「全ての町民へ」→原動力、特色になればいい。少し淋しい。もう少し肉付けをしたらよい。具体的に書かないと町民は動けない。 ・ 10年後戻ってくる人が増えてほしい。ベースは行政が努力。田舎でもインターネットで仕事ができる時代になった。市内に働きに行っている人の駐車場代の補助があったらいい。 ・ 守ってくれる人に対して誇りをもって住み続けてほしい。				

テーマ分科会「 筒賀小学校運営協議会 」

日程	令和5年11月17日（金） 11:00～12:00	場所	筒賀小学校	参加者数	6 名
ピックアップテーマ	地域の子どもとの関わり				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 筒賀や安芸太田の自然（木の名前も）や歴史、農業、林業のことを知って、町に戻ったり、町のことを思ったりしてほしい。 ↓ （知的好奇心、コミュニケーション、町を好きに） ・ 安芸太田を知り、安芸太田の良さを活かせる子、語れる子（自慢話として）				
自分たちにできること	・ 地域の自然体験の場をつくる。 ○野草を食べる会など○見分け方 ○青年会のもちつき○とちもち、こんにゃくづくり ↓ - でも、高齢化、出来る人が少なく、子どもの参加が少ない。 ↓ - 町に専門家をお迎えする！地域の人も参加する。 ↓ - 全部はできなくてもきっかけづくりはできる。 ・ 経験、体験を提供する。 ・ コミュニティスクール制度を上手に使う。 ・ 地域を残す。 ・ 聞く→知る→話す・伝える→聞く・・・				
その他意見	・ どういう人間をつくるのか。最終目標がない。（目標をどこに置いているのか） ・ 安芸太田町の子どもは百姓を知らない。市内の子の方がよく知っている。本末転倒か。 ・ 昔は意識しなくても自然とかかわっていた。自然な形で自然と触れ合ってほしい。自然とかかわる時間がなくなった。 ・ 保護者世代も自然に関わっていない人が多い。親子で共有できる自然体験の仕掛けを検討してほしい。 ・ 10年後はまた環境がちがう。地域が残っているか不安。伝える側が少なくなっている。 ・ 体験をしないと失敗も成功も分からない。				

テーマ分科会 「 戸河内小学校運営協議会 」

日程	11月21日（火） 11：00～12：00	場所	戸河内小学校	参加者数	6 名
ピックアップテーマ	地域の子どもとの関わり				
10年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	○あいさつのできる子（地域との関わり。コミュニケーション。心を育てる、鍛える。）→他の人と協力・強調しながらも、競争社会に出ても負けない強い子であって欲しい。→普段の生活で身に付ける力。 ○地域を担う子供				
自分たちにできること	○大人が機会を作らないとできない。大人が教えることが必要な部分もある。 ○大人が生き生きと日々を楽しみ、進んであいさつや声掛けをする。（人間関係作り、つながりを大切に） ○生きがいを持てる町にする				
その他意見	○高校生・大学生・就職して安芸太田から出て行った子が、たまにかえって来ても、家から出ないのは寂しい。 → 子供時代に町内にコミュニティが作れていないからではないか。 ○一人一人に差はあることを認める心や違いを見抜く力を持ってほしい。 ○自分自身の特徴を生かし、サポートに回れるような人材も必要。 ○安芸太田町内ではできていても、他に出るとできないではだめ。 ○「安芸太田町らしさ」＝自然・保護者・地域、みんなが「協力」することが大切（競争ではなく）←競争だけになると分裂した社会になる。 ○子供の声が聞こえる地域になって欲しい。 ○小さいときは出身を言うのが恥ずかしかったこともあったが、今は自然環境など自慢することができる。				

テーマ分科会「町内校長会」

日程	11月21日（火） 15：00～15：45	場所	川・森・文化・交流センター	参加者数	6 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
10年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・多様な他者となつがり、夢を実現できる子ども ・心の中に安芸太田町がある！（人生の選択肢にいつも…）				
自分たちにできること	・現実の自然、地域から学べる。地域の人から学べる。 ・総合的な学習の時間や教科のフィールドとして、安芸太田の自然や体験活動を行う。 ・協調学習を共通言語に、地域・保護者も実感をもってその良さを発信する。 ・小さな町の良さ（自然、人、歴史）＋外とのつながり（原体験をもたせる）				
その他意見	・地域の方は、昔は川や山が遊びの場だったと言われるが、今は安全面を考えると実現できない現状がある。 ・先生たちに、どんどん地域に出て学びなさいと言っても働き方改革で、負担が課せられない。地域の方も高齢化で、自然や伝統文化を教える人が少なくなっている。 ・先生たちが地域をつなぐ役割を担い、子どもたちに安芸太田の自然や伝統、文化を体験する学びを教育課程の中で行う必要がある。				

テーマ分科会「戸河内小学校職員」

日程	11月29日（水） 15：30～16：30	場所	戸河内小学校	参加者数	10 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 自律、幸せ、ポジティブ、責任（税金を納める） 相手に伝える→信頼関係 ・ 地域を愛する（帰って来る、町外に出る） ・ 将来、安芸太田町と関わりを持つ子（よりもっと先でも！）				
自分たちにできること	・ 助け合える環境をつくる。 ・ 失敗をさせる（手を出さない） ↓ 子ども自身にやらせる（見せないような裏方） 成功意識づける。 ・ 引き出しを増やす→地域を知る。 ・ 地域について話す。 ・ 学び続ける。 ・ 基本的な学力を身に付ける。 ・ たくましく生きる力を身に付ける。				
その他意見	・ 危ないからといって遊ぶ物をなくすと経験できない。物を握らないから握力がつかない。 ・ 「失敗しても大丈夫」→おそれている。間違えたらいやだ。 ↑先生がそういったクラスをつくらなくてはいけない。（先生の仕事） ・ 自分でできないと思っている子が増えた。 ・ 子どもたちが遊びを知らない。 ・ 「安芸太田町らしい学び」→総合→活動→学び ・ 昔に比べて親が働いていて目が届いていない。				

テーマ分科会「 教頭・事務長 」

日程	12月20日（水） 15：45～16：45	場所	加計小学校	参加者数	6 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
20年後こんな 「安芸太田っ子」が 増えてほしい	・ 安芸太田に自信と誇りを持っている。 ・ 安芸太田が好き、戻ってきたい。 ・ 夢をかなえる力をつける。				
自分たちに できること	・ 安芸太田町の良いところを職員同士で情報共有する。 ・ 良いところを知っている人とつながる。 ・ 大人も知る、やってみる。 ・ 協調学習、（人とのつながり、話し合い、折り合い）新しい考えをつくる。 ・ 地域の人との交流、学習（総合、生活）教育課程に取り込む。 ・ 放課後の過ごし方（地域のスポーツ活動、子ども受け入れ）。 ・ 農業、林業の体験、学習 ・ 学習のためのバス（マイクロ）をお願いします。軽トラもお願いします。				
その他 意見	・ 「安芸太田町らしい学び」とは自然をどう取り入れているか。現在は危ない。自然を活かした学び、遊ばせていない。 ・ 子どもたちが今の暮らしが当たり前になっていて、子どもたちが良さを知らないし遊び方を知らない。 ・ 町の良さに1つは自然、人情味のある町、子供も感じてくれていると思う。 ・ 卒業生が地域で働いている姿は先生として嬉しい。 ・ 協調学習は子どもの力になっていると考える。 → 10年かけただけはある。				

テーマ分科会 「 加計中職員 」

日程	12月26日（火） 13：00～14：00	場所	加計中学校	参加者数	11 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
20年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 安芸太田町に返ってくる大人 ・ 安芸太田町で育ってよかったと言える大人 ・ 答えのない・見えない社会を生き抜く「安芸太田っ子」 ・ 自分で選択し社会を生き抜く、そして楽しむ「安芸太田っ子」				
自分たちに行うことができること	・ 「やってみよう」を増やす ⇒ その生徒にとって何が引かかるか分からないから、選択肢と体験を増やす ・ 学校が、個別で学ぶ場ではなく、協力してみんなで失敗しながら学んでいく場とすること（互いに仲良くケンカもし合いながら学びを深めていく） ・ 地域の素材を使った「体験活動（四季、自然）」の開発（生徒とともに考える） ・ 学びたいと思う仕掛けづくり ・ さまざまな背景から「つまづき」を考える				
その他意見	・ 「自然」の基準とは何か。 ・ 「自然」が川と森を示しているなら活用できていない。 ・ 自然の良さを先生も生徒も使えていない。 ・ 数学は答えが出るが「自然」には答えがない。 ・ 町ではあたり前だけど街の子は知らない。住んでいるとあたり前、街ではあたり前でない。 ・ 自然の教材はあるから街の体験をさせてあげたい。 ・ ネットの知識が大きい。本質が分かってないから危険が大きい。 ・ 社会に対して未来がない。 ・ 自分たちは経験で何を学んだか。→物を大切に使う。作っている過程を知っている。 ・ 今はあってあたり前の時代になっているので、この状況に慣れてはダメだ。				

テーマ分科会 「 安芸中職員 」

日程	1月18日（木） 15：10～16：10	場所	安芸太田中学校	参加者数	11 名
ピックアップテーマ	本町の学びで目指す子ども像				
10年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・たくましさ ・自己肯定感 ・主体性 ・発信できる幅広い価値観を持つ ・挑戦 ・<u>多面的に考えられる、へこたれない、「やってみる！」</u> ↓ 遊び・ゆとり ↓ フォローする				
自分たちができること	・キャリア教育 町長が参加する ・主体性を育むために”見守る” ・達成感 ・多様な体験 一度町外に出て、安芸太田の良さを実感してもらう。他所を知る。 (狭い世界で生きている) ・<u>幅広い価値観</u>を持つ人になってほしい→ICTの活用 ↑ 多様な体験（イエプーンとの交流など） 自然、街 ・遊びを与える、フォローする。				
その他意見	・住んでいても知らないこと（自然）がある。学校教育の限られた時間では難しいし人の話を聞く機会が少ない。 ・赴任してくると地域の人分からないので、人材リストを作成し共有することで講師等お願いできるのではないかな。 ・豊かな自然の中に子どもがいるのに遊ばせていない。←今はこういった考えを反対に変えていけないといけない時代なのかもしれない。 ・都会への憧れがある。知らないから憧れている。田舎と都会の両方のメリット・デメリットを経験させ遊ばせる。 ・今年度1年生の合宿体験を「いこいの村ひろしま」で行ったが、それを都会でしてみる。 ・合同文化祭を市内の中学生とやってみる。 ・体験は大きな力となる。キャリアウィークはとてもいい経験。				

テーマ分科会「商工会、第一次産業、芸能・文化・NPO 団体等」

日程	1月26日（金） 10：10～：11：10	場所	まんが喫茶とりこや	参加者数	13 名
ピックアップテーマ	地域の子どもとの関わり				
10年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 大人達、安芸太田にあこがれる子ども。 ・ 自立した子供が増えてほしい（メンタル） ・ 安芸太田のことを語れる子。 ・ 自分の言葉で、自分の思いで伝えられる子、考えられる子。				
自分たちにできること	・ 町外との交流を増やす ・ 大人が町に戻って良いと自信をもって言える。 ・ 地域の先生（各分野）が活躍する。⇔地域の先生を活用してほしい。 ・ 子供が集まれる場所を増やす。 ・ 自然の「豊かさ」「厳しさ」を具体的に伝える。 ・ 「機会」と「経験」を提供する。 ・ 子供の思いを知る。				
その他意見	・ 自然を活かした教育受けていない ・ 映像で見ただけでは心に入っていないので、経験させる。経験を積み重ねると、街に出ていても、帰って来るのではないか。 ・ 今の若い親が遊ぶことを知らない。大人も一緒に遊ぶ。 ・ 大綱が「保護者・先生・町民」と区別されているのがいい。 ・ 町を見直そう。知ることも大事だけど、教えることも大事。				

テーマ分科会 「 加計小PTA 」

日程	1月26日（金） 19：20～：20：00	場所	まんが喫茶とりこや	参加者数	7 名
ピックアップテーマ	好奇心を刺激する学び				
10年後こんな「安芸太田っ子」が増えてほしい	・ 少人数の良さはあるが、優しい子ども達だが、大勢の中でも自分の意見が言える、たくましい。 ・ 自分で考えらえる。 ・ 人の話を聞ける。 ・ ITに使われない。振り回されない。				
自分たちにできること	・ 中学校の一つ（が希望） ・ 留学や大きい学校との交流。 ・ 町や郡の枠で保護者が子どもの体験、交流の機会をつくる。 ・ 家で補助。 ・ 声を上げる。 ・ 保護者として、町の枠を出た広域での体験・交流の場を作ってあげたい。 ・ 親としてのIT環境リテラシー。				
その他意見	・ 小・中はスクールバスがあるが、高校生はない。加計高までの道路状況が悪く、街頭がないので、道が暗くて危ない。 ・ 町外の高校に行くにはバスがない。なので市内に出る。そうしたら帰って来ない。 ・ 加計高へ県外から来ても就職先がないので、出ていく。若い子は残らない ・ 協調学習は有効なのか。10年やってきて成果が出てきているのか。 ・ 今は川とか遊びに行かせない。危険。自然環境が失われている。農薬や除草剤が撒かれているので、子どもが自転車で遊べるところがない。 ・ 小数人の学校生活に何十年も過ごしているから、高校で市内に出ると物おじする。ついていけなくなる。今のうちにそういう力を中学校でつけてほしい。 ・ 少人数の良さ、優しい子ども達の良さ、はある。しかし、大勢の中でも自分の意見をいう事が出来る「たくましい子」になってほしい。				

テーマ分科会「 加計高校生徒 」

日程	1月30日（水） 16：00～：17：00	場所	加計高等学校	参加者数	6 名
ピックアップテーマ	力を合わせ共に育つ学び				
10年後どのような大人になりたいか	・相手の立場になって考えられる人 ・アクティブな人 ・後悔しない人 ・楽しく何でもこなせる人 ・変化（自分、環境、未来）				
そのために安芸太田町で、できること	・深い所まで仕事体験をしたい。 ・文化について深掘する。地元生と寮生の壁をなくす。 ・地域の人との交流を深める。 ・今までしたことがない事に挑戦する。そんな機会を沢山つくる。 ・習い事したかった。 ・同世代の他の町外の人と関わりたい。⇒自己肯定感につながる。 ・浅くても沢山の人と関わりたい。 ・スキー合宿 ・分校と関わる ・地域の人を巻き込んで学ぶ。 （年齢層幅広い人と関わって色々な考えを知る） ・林間学校で協調性を生み出す。				
その他意見	・自然がたくさんあるのに、あまり関わっていない。（生活の中で） ・授業の中で、雪かきやスキー、スノーボードの体験がしたかった。県外から来ている生徒も多いので、体験するべき。 ・小中学校の時には協調学習があり、楽しかった。高校になると授業を聞くという一方通行なので、グループワークの方が良い。 ・森林に関する授業を取り入れてほしい。 ・清掃のボランティア活動を行っているが、町民の方と話す機会がなく町民の方が本当にここを清掃してほしいか分からない。 ・コロナ前は、町内中学3年生と高校生で合同合宿があった。また、合同合宿出来るようにしてほしい。 ・幅広い年齢層の人と関わり、多様な考え方を知りたい。 ・「井の中の蛙大海を知らず」なのかなと思っていたら、自分の凄さやもっと自信を持って良い事に気づいたことも。				

テーマ分科会「全町民」

日程	2月20日（火） 18：00～19：30	場所	役場大集会室	参加者数	8 名
テーマ	安芸太田町らしい教育のあり方と 教育大綱を考える「意見交換会」				
教育大綱へのご意見	・（熟議まとめを読んで）校長会や教職員から出ている意見、自然の中での体験をさせたい、というのは現場の本当の意見だと思う。 ・しかし一方で、学習指導要領に基づくこと、加えて現在の働き方改革の取り組みの中では、結局、絵に描いた餅の大綱になってしまわないか。 ・大綱の中には各柱があるが、その柱ごとに具体的に何をするのか、が記されていないように感じる。具体的に書かないと町民は動けないのでは。 ・たくさんの意見もあったと思うが、本町教育の目指すものについて、よくまとめた大綱だと思う。				
その他ご意見	・町民の教育に対する関心度の低さが気になる。 ・今日の意見交換会含め熟議には、現役の保護者は参加しづらかったと思うが、やはり現役世代の保護者の声がもっと聞ければ良かったと思う。 ・各熟議を行ったように、大綱策定後も引き続き町民が教育に興味関心を持てる取り組みを是非。 ・これまでの熟議で、小学生が対象になってないのが気になる。 ・協調学習について、対話的ではあったが、主体的ではなかったと感じている。				